平成26年11月28日

平成２６年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。
こうした考えから，平成２６年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。
また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成26年4月22日(火)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）
中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の参加状況

第４学年	国語	１１７人	算数	１１７人	理科　１１７人
第５学年	国語	１１９人	算数	１１９人	理科　１１９人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

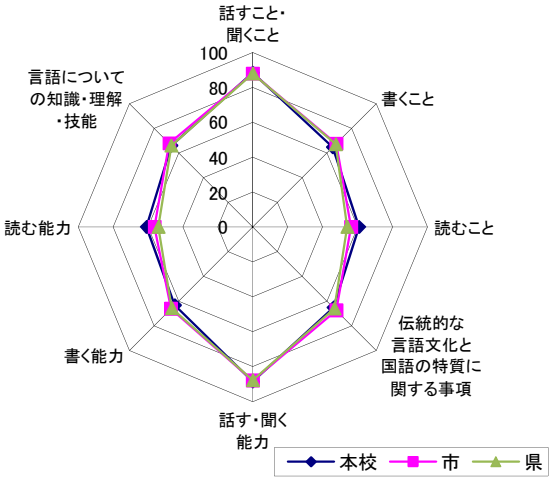
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	88.5	87.9	87.8
	書くこと	64.7	67.6	67.1
	読むこと	60.9	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.3	67.6	66.0
観点	話す･聞く能力	88.5	87.9	87.8
	書く能力	63.3	66.3	65.7
	読む能力	60.9	56.3	54.1
	言語についての知識･理解･技能	66.0	67.7	66.0



★指導の工夫と改善

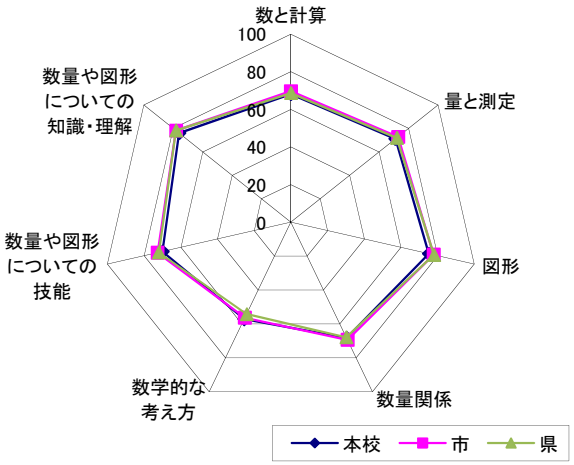
〇良好なもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	〇領域の平均正答率は88．5%で，県平均より0．7ポイント，市平均より0．6ポイント高い。 〇互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くことや話の中心に気をつけて聞くことについての設問は2問とも94%以上で，十分に定着していると言える。 ●話し方の工夫に気を付けて聞くことについての設問では県や市の平均より高いが，80%を下回っており，話し方の工夫についての理解に課題が見られる。	･話すこと･聞くことについては，学校課題でも取り上げ，重点的に指導している。今後も朝のスピーチを継続，充実させていくとともに，総合的な学習等でも表現力の育成に努めていきたい。 ･学級活動における話合いでも，自分の意見を分かりやすく相手に伝える工夫について指導を充実させていきたい。
書くこと	●領域の平均正答率は64．7%で，県平均より2．4ポイント，市平均より2．9ポイント低い。 〇招待する手紙の書き方で，読み手に伝えたい事柄を正確に伝えられるように書くことについては，県の平均を上回っており，全体の中では定着していると言える。 ●招待する手紙で来てくれるようお願いする言葉を書くことについては，市や県の平均を下回っており，課題が見られる。	･各教科等の学習で，自分の考えを書く活動を積極的に取り入れて，書くことへの抵抗感をなくす工夫をしていく。 ･さまざまな教育活動で手紙を書く機会をとらえて，手紙の文章構成についての理解を深めていきたい。
読むこと	〇領域の平均正答率は60．9%で，県平均より6．8ポイント，市平均より4．6ポイント高い。 〇説明文の内容の理解や図と話合いの内容を関連付けた理解に関する設問は，県や市の平均を大きく上回り，十分に定着していると言える。 ●物語の内容の読み取りで，叙述をもとに，登場人物の気持ちを想像して読むことは，市や県の平均をやや下回っており，課題が見られる。	･文学的な文章では，場面の移り変わりや登場人物の心情の読み取りの学習をする際に，必ず叙述に根拠を求めるよう意識させることにより，読む力を高めていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●事項の平均正答率は65．3%で，県平均より0．7ポイント，市平均より2．3ポイント低い。 〇前学年の配当漢字を読む設問では，市や県の平均を上回り，漢字を正しく読む力は十分定着していると言える。 ●前学年や前々学年の配当漢字を書く設問の正答率は，県や市の平均を下回り，中でも前学年の配当漢字「定める」の正答率は40%に満たない。漢字を正しく書く力に課題がある。また国語辞典の使い方に関する設問は，市や県の平均を下回り，課題が見られる。	･朝の学習や家庭学習の課題として，漢字の反復練習を継続的に取り入れ，定着を図る。 ･各教科の学習で，分からない言葉を国語辞典を使って調べる学習習慣を身に付けるよう指導していく。 ･文章を書く際には，既習の漢字を意識して使うよう指導する。

宇都宮市立豊郷中央小学校第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.2	69.6	68.7
	量と測定	71.0	72.8	72.0
	図形	75.2	77.8	78.0
	数量関係	68.2	69.4	67.8
観点	数学的な考え方	57.2	56.3	54.2
	数量や図形についての技能	70.0	72.7	72.0
	数量や図形についての知識・理解	76.0	78.2	78.1



★指導の工夫と改善

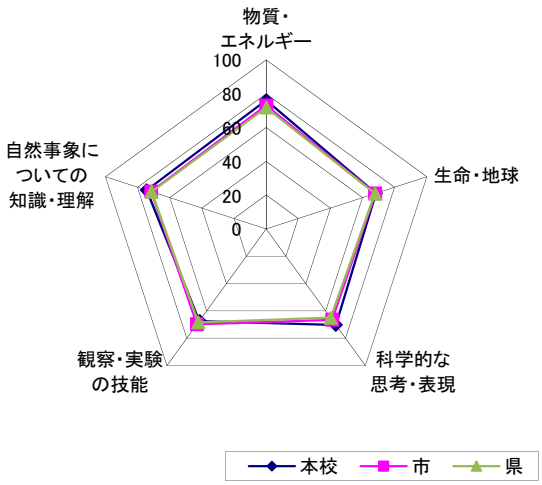
〇良好なもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域の平均正答率は68．2%で，県平均より0．5ポイント，市平均より1．4ポイント低い。 〇（　）を用いて1つの式に表した3つの数の乗法について，式の意味を場面と結び付けた説明を選ぶことは，県や市の平均を上回っている。 ●繰り下がりのある計算，3位数×2位数，分数の表し方が県や市の平均を下回っており，課題が見られる。	・繰り下がりのある計算は，空位数の処理の仕方を反復練習していきたい。またかけ算九九の習熟を図っていきたい。さらに計算の習熟だけでなく文章題において式を立てることにより，思考力を高めることも重点課題としたい。 ・分数は数直線を使って数の構成と分母が理解できるように繰り返し指導していきたい。
量と測定	●領域の平均正答率は71．0%で，県平均より1ポイント，市平均より1．8ポイント低い。 〇ある時刻から一定時間前の時刻を求めることは，県や市の平均を上回っている。 ●電車とバスの乗車時間を求め，比較することは，県や市の平均を下回っており，課題が見られる。	・多く情報の中から，必要な事柄を整理して解決することができるような場を設け，力の定着を図る。
図形	●領域の平均正答率は75．2%で，県平均より2．8ポイント，市平均より2．6ポイント低い。 〇球の半径と直径の関係の理解は，県や市の平均を上回っている。 ●正三角形の作図は，県や市の平均を下回っており，課題が見られる。	・正三角形の作図は，コンパスを使うときに針のずれや線の引き方に気をつけて作図するように指導していきたい。
数量関係	●領域の平均正答率は68．2%で，県平均より0．4ポイント高く，市平均より1．2ポイント低い。 〇棒グラフから冊数の違いを読み取ることは，県や市の平均と同等である。 ●□を使った乗法の式にあった文章問題を選ぶことは，県や市の平均と同等であるが，正答率が低く課題が見られる。	・何を□として立式したのかを理解させるとともに，文章問題の中にある言葉で何算の式になるのかを判断できるように定着を図りたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質･エネルギー	76.2	73.1	71.8
	生命･地球	68.3	67.9	67.8
観点	科学的な思考･表現	70.2	66.5	65.0
	観察･実験の技能	67.4	69.7	68.4
	自然事象についての知識･理解	74.4	71.6	71.4



★指導の工夫と改善

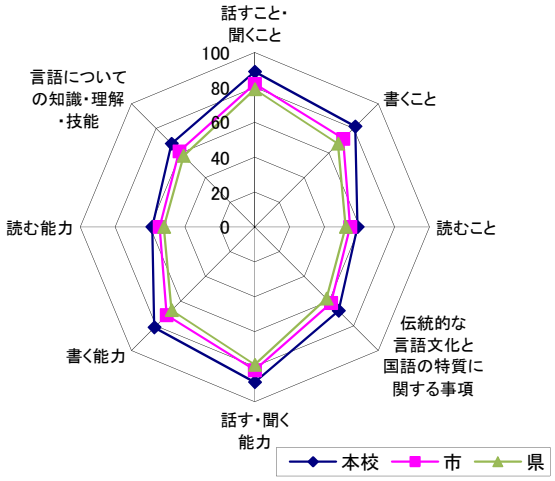
〇良好なもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	〇領域の平均正答率は76．2%で，県平均より4．4ポイント，市平均より3．1ポイント高い。 〇特に，複数枚の平面鏡で日光を反射して重ねたときの暖かさの違いの設問の正答率は，96．6%で県や市の平均より約5ポイント高い。光の性質の理解が定着していると言える。 〇特に，磁石の性質に関する設問の正答率は，56%で県や市の平均を大きく上回っている。磁石の性質の理解に成果が見られる。 ●実験結果から，目的とする距離に適したゴムの伸びを推測する設問の正答率は67．2%で市や県の平均より低い。風やゴムのはたらきの知識の定着に課題が見られる。	･実験を行う際に，児童に学習問題を十分に理解させ，主体的に実験に取り組ませるようにする。 ･ゴムの伸びと車が走る距離の関係について，実験をもとに自分の言葉や図を使ってまとめさせていく。
生命・地球	〇領域の平均正答率は68．3%で，県平均より0．5ポイント，市平均より0．4ポイント高い。 〇昆虫と昆虫以外を区別し，その理由を説明する設問の正答率は，84．9%で市の平均より6．5ポイント高い。昆虫の学習の理解に成果が見られる。 〇身の回りの植物の種子と育った様子についての設問の正答率は，市の平均より5．4ポイント高い。身の回りの植物の種子と育った様子の理解が十分定着していると言える。 ●虫眼鏡の正しい使い方や地面の温度の測り方についての設問の正答率は，31%で市の平均を下回っており，課題が見られる。	･虫眼鏡の正しい使い方の確実な定着のために，植物の育ち方の単元だけでなく，昆虫の単元でも虫眼鏡を活用するなど，活用の幅を広げ，観察の道具に慣れるとともに，繰り返し正しい使い方を確認するよう努める。 ･実験器具を初めて使用させる際には，その目的や機能を明らかにしたうえで，視聴覚教材などを用いて誰にでも分かりやすい説明を行い，器具の正しい操作方法の習得に努めていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	88.9	82.0	78.9
	書くこと	81.4	71.5	67.4
	読むこと	58.8	54.6	52.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.9	61.7	58.1
観点	話す･聞く能力	88.9	82.0	78.9
	書く能力	81.4	71.5	67.4
	読む能力	58.8	54.6	52.1
	言語についての知識･理解･技能	67.5	61.3	57.7



★指導の工夫と改善

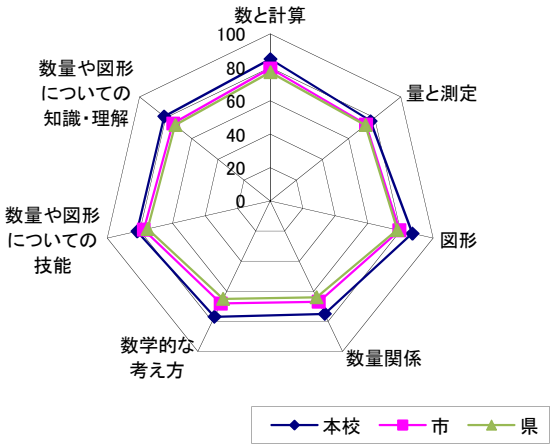
〇良好なもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	〇領域の平均正答率は88．9%で，県平均より10ポイント，市平均より6．9ポイント高い。 〇話の中心に気を付けて聞くことについての設問の正答率は2問とも94%以上で，十分に定着していると言える。 ●司会者の話合いの進め方の工夫についての設問の正答率は県や市の平均よりも高いが，80%を下回っており，話合いの仕方についての理解に課題が見られる。	･話すこと･聞くことについては，学校課題でも取り上げ，重点的に指導をしているところである。今後も国語だけでなく各教科等や朝のスピーチなどで，表現力の育成と定着を図りたい。 ･話合いの学習や学級活動での話合いなどの場面で，司会者の役割をどの児童にも経験させ，話合いの仕方についての理解を深めたい。
書くこと	〇領域の平均正答率は81．4%で，県平均より14ポイント，市平均より9．9ポイント高い。 〇自分の意見やその理由を書くことについては，県や市の平均を大きく上回り，正答率はいずれも80%を示しているので，十分に定着していると言える。 ●文章の長さや段落構成の条件に合わせて書くことについても県や市の平均を上回ってはいるが，正答率が80%を下回っており，やや課題が見られる。	･各教科等の学習で，自分の考えや意見を理由を添えて書く活動を意図的に設定する。その際，文字数を制限したり，段落構成を指定したりして書かせる機会をもち，力の定着を図る。
読むこと	〇領域の平均正答率は58．8%で，県平均より6．7ポイント，市平均より4．2ポイント高い。 〇目的や必要に応じて文章の内容を読んだり，登場人物の気持ちを読んだりする設問の正答率は県や市の平均よりも高い。説明的な文章や文学的な文章を読む力がおおむね定着していると言える。 ●段落の関係に注意して読んだり，叙述を基に場面の様子を読んだりする設問の正答率は，県や市の平均よりは上回っているものの，50%を下回っており，やや課題が見られる。	･説明的な文章の読解においては，中心となる語や文に注目して要点をまとめたり，小見出しをつけたりして内容を整理させる。さらに指示語や接続語に気を付けて段落相互の関係をとらえさせるようにし，読む力の伸長を図りたい。 ･文学的な文章では，登場人物の気持ちや場面の様子の読み取りの際に，必ず叙述に根拠を求めるよう意識させることによって，読む力の伸長を図りたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	〇事項の平均正答率は67．9%で，県平均より9．8ポイント，市平均より6．2ポイント高い。 〇前学年の配当漢字を読む設問には高い正答率を示しており，漢字を正しく読む力は十分定着していると言える。 ●前学年や前々学年の配当漢字を書く設問の正答率は，県や市の平均を上回ってはいるものの，読みに比べてかなり低く，前学年の配当漢字「良好」を書く設問に至っては，正答率が10%にも満たない。漢字を正しく書く力に課題がある。	･漢字の学習では，新出漢字の構成や筆順，意味や由来，読み方などを調べさせるとともに，多くの熟語を提示することにより，関心をもって学習に取り組むことができるようにする。 ･朝の学習や家庭学習の課題として，反復練習を継続的に取り入れ，定着を図る。 ･文や文章を書く際には，漢字のもつ意味を考えて正しく使ったり，既習の漢字を意識して使ったりする習慣を付けるよう指導する。

宇都宮市立豊郷中央小学校第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	84.9	79.3	77.1
	量と測定	76.7	73.4	72.9
	図形	87.4	79.4	78.0
	数量関係	75.1	67.0	64.0
観点	数学的な考え方	77.0	68.2	65.1
	数量や図形についての技能	81.8	77.7	75.4
	数量や図形についての知識・理解	81.2	74.5	72.8



★指導の工夫と改善

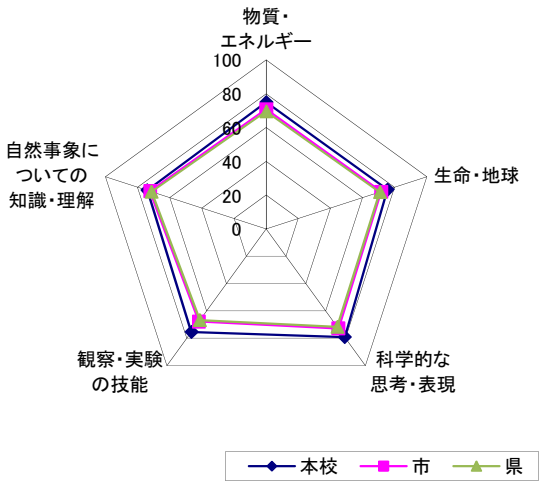
,○良好なもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の平均正答率は84．9%で，県平均より7．8ポイント，市平均より5．6ポイント高い。 ○帯分数＋帯分数＝帯分数の同分母分数の計算においては，校内正答率が99．1%と，市や県の平均を大きく上回っており，十分に定着していると言える。 ●数直線上に示された分数の表し方については，市や県の平均を超えているが，80%を下回っている。	・数量やその関係を言葉，数，式，図，表，グラフなどに表したり調べたりする学習活動を行っていくことで，分数の表し方についての知識や数学的な考え方を深めていく。
量と測定	○領域の平均正答率は76．7%で，県平均より3．8ポイント，市平均より3．3ポイント高い。 ○角の大きさの見当をつける設問では，市と県平均を大きく上回っている。 ●面積の㎡と㎠の単位の関係の設問では，校内正答率が36．6%と低い値を示している。単位の意味を正しく理解できていないと考えられる。	・身近な物の情報と照らし合わせて，事柄を比較・整理して解決することができるような場を設け，力の定着を図る。
図形	○領域の平均正答率は87．4%で，県平均より9．4ポイント，市平均より8ポイント高い。 ○見取図から平行な面を答える設問では，市と県の平均を上回っている。平行や垂直についての知識が定着していると考えられる。 ●ひし形の作図においては，正答率が80%を下回っている。正しい作図の仕方が定着していないと考えられる。	・作図をする際には，コンパスを使うときに針のずれや線の引き方に気をつけて作図するように指導していきたい。
数量関係	○領域の平均正答率は75．1%で，県平均より11．1ポイント，市平均より8．1ポイント高い。 ●グラフから数量関係を読み取る設問では，正答率が36．8%と低い値を示している。伴って変わる二つの数量の関係を表したり調べたりする力が定着していないと考えられる。	・目的に応じて資料を集めて分類・整理し，表やグラフを用いて分かりやすく表したり，特徴を調べたりする機会を増やすことで，力の定着を図る。

宇都宮市立豊郷中央小学校第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	75.1	70.8	69.5
	生命・地球	75.5	71.5	70.8
観点	科学的な思考・表現	79.2	72.8	71.7
	観察・実験の技能	75.4	67.8	66.8
	自然事象についての知識・理解	74.0	72.3	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は75．1%で，県平均より5．6ポイント，市平均より4．3ポイント高い。 ○「空気と水の性質」の空気と水を一緒に閉じこめたとき，それぞれが押し縮められるかどうか考えるという設問では，市・県の正答率より10%以上上回っている。 ○「金属，水，空気と温度」のアルコールランプの安全な使い方についての設問では，市・県の正答率より10%上回っている。 ○「金属，水，空気と温度」の教室の上の方と下の方の温度のちがいが，熱せられた空気の移動によることを説明する設問では，市・県の正答率より10%以上上回っている。 ○「電気のはたらき」の光電池の光の当たり方と電気を起こすはたらきの関係から，実験結果を推測するという設問では，市・県の正答率より10%以上上回っている。 ●「金属，水，空気と温度」の金属が温められたときの体積の変化を問う設問では，市・県の正答率より3～5%程下回っている。 ●「金属，水，空気と温度」の水が氷になったときの体積の変化を問う設問では，市・県の正答率より6%程下回っている。	・日常生活の事象と関連付けて予想を立てることを重視し，科学的な物の見方を高めていくようにする。 ・実験を伴う学習では，予想，実験，結果の考察という過程を経て，自然事象に対する科学的な考え方を養うよう，今後も指導していく。 ・関連する既習事項について復習するとともに，系統的な学習をさらに充実させて基礎的な事項の習熟を図る。
生命・地球	○領域の平均正答率は75．5%で，県平均より4．7ポイント，市平均より4ポイント高い。 ○「季節と生物」の身の回りの生き物の冬のようすがわかるという設問では，市・県の正答率より5%程上回っている。 ○「天気のようす」の気温の正しい測りかたについての設問では，市・県の正答率より10%程上回っている。 ○「月と星」の星が時間の経過に伴って，どのように位置が変わるのかについての設問では，市・県の正答率より6%程上回っている。 ●「人の体のつくりと運動」の人の背中がまるく曲げられる理由を説明する設問の正答率は市・県とほぼ同じであったが31．6%と低い値を示した。 ●「月と星」の1ヶ月後の月の形についての設問の正答率は市・県とほぼ同じであったが36．8%と低い値を示した。	・「人の体のつくりと運動」では模型や視聴覚教材を活用し，具体的なイメージをつかませながら学習内容の定着を図っていく。 ・「月と星」では，月と星の観察を継続して行うようにし支援し，形や位置の変化を実際の目でとらえ，認識できるようにしていく。 ・自然環境豊かな地域性を生かし，身の回りの自然に目を向けさせたり，変化を捉えさせたりしながら，自然事象への興味・関心をさらに高めていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校第４・５学年児童質問紙調査

★傾向　　○良好なもの　●課題が見られるもの

【4年】

○「じゅ業では，最後に学習したことをふり返る活動をよく行っている」という質問に対して，75%以上の児童が肯定的な回答をしており，市の平均を4ポイント上回っている。また，「できるだけ自分ひとりの力でものごとをかい決しようとしている」という質問に対して約86%の児童が肯定的な回答をし，市の平均をやや上回っている。さらに「勉強をしていて，おもしろい，楽しいと思うことがある」という質問に対して85%が肯定的な回答をしており，児童は，学習に対する興味・関心が高く，自分の力で課題を解決しようと前向きな気持ちで取り組んでいると言える。

○「時間をじょうずに使うことを心がけている」という質問に対する肯定的な回答は，83%で県や市の平均よりやや高い。また「将来のゆめや目標がある」という質問に対する肯定的回答は，93%以上で市や県の平均を上回っている。将来の夢や目標を明確に描いて，時間を有効に使い，努力していこうとする生活態度が育成されていると言える。

○「１日にどのくらい携帯電話・スマートフォンで，電話やメールをしたり，インターネットのサイトを見たりしていますか」という質問には，「全くしない」と回答している児童が78．6%となっている。市や県と比較してみると，電話・スマートフォンを使用していない児童の割合が非常に高いと言える。今後も保護者との連携を図りながら，正しい情報の活用の仕方を指導していきたい。

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」や「家の人と将来のことについて話すことがある」という質問に対する肯定的回答は，市や県よりも上回っており，保護者の教育への関心の高さがうかがえる。今後も家庭と学校との連携を密にし，さらに児童の成長のために努めていきたい。

●「クラスは発言しやすい」という質問に対して，肯定的な回答率が，県や市のものよりやや低い。日常の授業の中でも，自分の考えを持つことができるものの，全体の前で発言することに抵抗感を持つ児童も少なくない。話す・聞くことの指導に加え，短い言葉を発表する機会を多く設けるなど発言に慣れていけるような指導が必要である。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」という質問の肯定的な回答率が，県や市のものに比べ，やや少ない。学級の仕事に積極的に取り組んだり，友達に親切にしたりする姿は見られるものの，その行動が役立っていると実感できていないと言える。お互いの行動を認め合ったり，改めて感謝を伝える場を設けたりすることによって，自己有用感の高揚を図りたい。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは，じ書を使って調べている」という質問に対する肯定的な回答率は，県や市のものよりやや低い。授業の中で，わからないものがあるときはすぐに質問できるが，自分から調べようとする児童は多いとは言えない。国語に限らず，様々な場面で，漢字や言葉がわからない時には，教師が辞書を使って調べて見せたり，実際に児童に調べさせたりする場を設ける必要がある。

【5年】

○「じゅ業では，じゅ業の目ひょうがしめされている」という質問に対して，95%以上の児童が肯定的な回答をしている。また，「じゅ業では，さい後に学習したことをふり返る活動をよく行っている」という質問に対しても，80%以上の児童が肯定的な回答をしている。さらに，「じゅ業を集中して受けている」という児童も95%以上いる。目標をもって授業に臨み，集中して取り組み，成果をふり返るという基本的な学習態度が身に付いていると言える。

○「本やインターネットなどをり用して，勉強にかんするじょうほうをえている」という質問に対する肯定的な回答率は，県や市よりもやや高い。また，「（インターネットの）見てはいけないサイトにつながらないようになっていますか」という質問に対する肯定的な回答率は，県や市のものより10%前後高い。今後も，家庭の協力を仰ぎながら，正しい情報の活用の仕方について指導していきたい。

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」や「家の人としょう来のことについて話すことがある」という質問に対する肯定的な回答率は，県や市のものより高く，家庭の教育への関心の高さが見受けられる。今後も，家庭と協力して，児童のより良い成長のために努めていきたい。

●「家で，学校のじゅ業の予習をしている」や「家で，学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問の肯定的な回答率が，県や市のものよりやや低い。また，家庭での学習時間についても学校教育スタンダードでうたわれている「高学年は1時間」の目安に達していない児童が65%もいる。家庭学習の内容や時間について，家庭の協力を仰ぎながら，具体的に指導する必要がある。

●「1か月に何さつくらい本を読みますか」という質問に対して，「5さつ以上」と回答した児童は，県や市よりもやや少ない。読書を好む児童は多いが，日頃の読書への取り組みの様子を見ていると，その読書量や内容には大きな個人差が見られる。学校全体としての図書館教育の推進とともに，国語科の学習や朝の読書などを通じて読書の楽しさや必要性について指導していく必要がある。

●「自分には，よいところがあると思う」という質問に対する肯定的な回答率は，市のものよりやや低い。日頃の活動への取り組みを見ても，自信の無さがうかがえる児童も少なくない。結果のみでなく，児童一人一人の努力の過程をよく見取り，ほめたり励ましたりすることによって，自尊感情の高揚を図りたい。